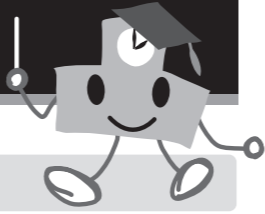


小学校の事例 西区 琴似小学校

区のアダプトプログラムに参加し、清掃活動。地域からの温かい声が意欲に。

地域の環境やごみと資源の問題を考えるため、区の子育て活動に参加。現状を知り、意見・感想をしっかりとつたための時間もつくり、環境意識を高める。体験し、実感することで理解度が増すように。



内容 保護者らと共に年6回の清掃活動

本校では、6年生が西区役所のアダプトプログラムに参加しており、月に1回地域の清掃を行っている。昨年は5～11月に総合的な学習の時間を利用して、全6回の実施を計画。天候不順により1回中止になったため、5回の実施となった。

清掃活動には児童104名、教員4名に合わせ保護者も15名ほど参加した。児童はクラスごとに、各方面に分かれて清掃を行う。道路にはあまりごみがなく、区役所近くの屯田の森にごみが溜まっていることが多かった。清掃活動の後には、「こんなところにごみが多かった」「きれいになって気持ちよかった」など、わかったことや感じたこと、思ったことなどをまとめ、振り返る時間を設けている。



アダプト①

効果 地域の清掃活動から日常の行動へ

地域の清掃活動が、地域の環境やごみと資源の問題などを考えるための意識づくりに大変役立っていると考えている。

通行人の方などに温かい言葉をかけてもらったり、お礼を言われたりすることが、子供たちにとってはとても嬉しく、活動の励みになっているように感じられた。自分たちの力が役立っているという実感が意欲向上に繋がっている。また、この経験が、春と秋に全校で行われるグラウンド清掃に生かされており、このような6年生の一生懸命な姿が、下級生の手本になっていると思う。

取組がその場限りのものにならないように、普段の生活にも反映させていきたい。



区役所での調印式

今後 活動学年を増やし より発展的な取組へ

活動範囲を広げたり、変えたり、取組む学年を増やすなどできたらよいと思う。4年生の希望児童が春に発寒川の清掃を地域の方と行っており、この活動と繋げていけたらと考えている。低学年から繋がるような取組ができれば、なおよいと思うが、実際は時間もなく、1～2年生で環境学習を実施するのは難しい状態だ。

また、今後は年度始めなど早めに知らせることで、保護者の参加率を上げていきたい。子どもの手本になれるよう、大人の意識も変えていく必要がある。

環境教育は、調べたり本を見たりして頭で理解するだけではなく、子どもが直接関わって実感するということが大切である。そのような機会をできるだけ設けると共に、日常生活の中で自然に取組める環境づくりを心がけたいと考えている。



アダプト②

広げよう つなげよう 環境学習の輪



実施校から メッセージ

「アダプトプログラム」とは、市民と行政が協同で進める、まち美化プログラムのこと。「アダプト」とは「養子縁組する」という意味であり、企業や地域住民などが道路や公園など一定の公共の場所の里親となり、定期的・継続的に清掃活動を行い、行政がこれを支援する仕組みとなっています。まず、道路や公園などの管理者とアダプト団体が、対象となる区間や場所、清掃する回数、団体がその場所で行ってよいこと（花や樹木を植えるなど）や管理者の役割（ごみの回収、掃除用具提供など）、期間などについて合意し契約を行います。それにより、清掃活動する側には責任が生じ、対象となる場所にはアダプトされていることを示す看板が立てられます。

この活動は、高速道路に散乱するごみの対策に悩ませていた米国テキサス州が、昭和60年に導入したのが始まりで、その後、急速に全米に普及しました。日本でも、平成10年以降、導入されてきており、現在では300以上の自治体が導入しています。道内では、平成13年5月から西区琴似本通地区で行われたモデル事業が初の試みとなりました。他に帯広市、釧路市が同様に平成13年から実施しています。